



室内環境測定セット IES-4000

通信ソフト取扱説明書(厚生労働省推奨報告書書式編)

OPERATION MANUAL 5



このたびは、当社製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

●この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を記載しています。
 ●ご使用前にこの取扱説明書と添付の保証書を最後までお読みのうえ、安全に正しくお使いください。

●お読みになった後は、いつでも取り出せる場所に保証書とともに大切に保管してください。

取扱説明書の構成

本製品では以下の取扱説明書を用意しています。

〇本体取扱説明書(はじめにお読みください)

はじめに本書をお読みください。本製品の構成や接続方法について説明しています。

〇操作方法取扱説明書(厚生労働省推奨報告書書式編)

タッチパネルを使った本製品の操作方法(厚生労働省推奨報告書書式)について説明 しています。

〇操作方法取扱説明書(連続測定編)

タッチパネルを使った本製品の操作方法(連続測定)について説明しています。

〇校正・調整方法取扱説明書

各ユニットの校正方法について説明しています。

●通信ソフト取扱説明書(厚生労働省推奨報告書書式編)【本書】

Windows 用通信ソフトの使用方法について説明しています。ここでは厚生労働省推奨 報告書書式による使用方法について説明しています。

〇通信ソフト取扱説明書(連続測定編)

Windows 用通信ソフトの使用方法について説明しています。ここでは連続測定を行う場合の使用方法について説明しています。

目次

通信ソフトウェア ご使用に際して ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•••• 6
はじめに ・・・・・	••• 7
1 動作環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••• 7
2 測定報告書作成プログラムのインストール手順・・・・・・・・・・・・	••• 8
3 USB メモリの取り外し・・・・・	•• 12
4 プログラムの起動・・・・・・	•• 13
4-1 Windows 8/8.1	•• 13
4-2 Windows 7 以前	•• 14
4-3 Windows 共通 ······	•• 14
4-4 起動直後の画面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 14
5. 両西港はと過ん士注	15
5 回回伸成と保作力法	15
2-1 画面	•• 10
	10
3-1-2 報古書作成情報の体化フォルダ選択画画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 10
5-1-3 報告書作成情報ノオルダで行う作業内谷の選択回面・・・・・・・ 5-1-4 タ 孫 笠 理 両 古 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
0 ⁻ 1-4 谷裡官理画U ····································	•• 1/
5-1-5 戦日書1F及回回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
5-2 7 = 1 =	10
J-Z-I ノアイル ······	10
5-2-2 補未・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
5-2-1 义—川······	10
524 ノール	10
525 ガベダム(拡張機能が有効の場合のが) 5-2-6 ヘルプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 10
	13
6 各種登録作業 ······	•• 20
6-1 データ構造 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 20
6-2 保存フォルダの操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 21
6-2-1 保存フォルダの検索 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 21
6-2-2 保存フォルダの作成と初期化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 21
6-2-3 フォルダの修復・・・・・	•• 22
6-2-4 読み込み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 23
6-2-5 建築物一覧の表示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 23
6-3 作業者登録 ••••••	•• 24
6-3-1 作業者の追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 24
6-3-2 作業者の削除・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 24
6-3-3 作業者の表示順変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 24
6-3-4 作業者のインポート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 24

		6-3-5	作業者の基本情報編集・・・・・	24
	6-4	建築物	Ⅰ登録 ・・・・・	25
		6-4-1	建築物の追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
		6-4-2	建築物の削除 ・・・・・	25
		6-4-3	建築物の複製 ・・・・・	25
		6-4-4	建築物の表示順変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
		6-4-5	建築物のインポート ・・・・・	25
	6-5	建築物	Jの情報編集 ······	26
		6-5-1	建築物の基本情報編集・・・・・・	26
		6-5-2	建築物の測定場所(測定ポイント)情報編集 ・・・・・・	26
		6-5-3	建築物の測定順路の編集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
		6-5-4	建築物の情報の印刷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	6-6	測定記	録の消去 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
7	墊	告書作」	戎	28
	7-1	~[_]/	~	28
		7-1-1	測定済みの記録からの新規作成・・・・・	28
		7-1-2	既存の報告書の編集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	7-2	編集▪		29
		7-2-1	表紙 •••••	29
		7-2-2	概要 •••••	30
		7-2-3	詳細 •••••	32
		7-2-4	グラフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
	7-3	記録編	集	35
		7-3-1	測定場所の編集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
		7-3-2	並べ替え ・・・・・	35
	7-4	報告書	基本值	36
		7-4-1	基本値として保存される内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
		7-4-2	保存 ••••••	36
		7-4-3	読み込み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
	7-5	概評候	補 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	37
8	ÉĽ]届 ••••		38
Ŭ	8-1	報告書	印刷	38
	• •	8-1-1	全印刷	38
		8-1-2		38
		8-1-3	表示中を印刷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38
		8-1-4	空白印刷 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	38
	8-2	印刷設	。 t定 ·····	38
	_	8-2-1		38
		8-2-2	余白調節 ••••••	38
		8-2-3	白黒印刷 ••••••	38

9	報告書保	存	39
	9-1 ファイ	イル保存・・・・・・	39
	9-1-1	報告書形式での保存 ・・・・・	39
	9-1-2	CSV/EXCEL 形式での保存 ・・・・・	39
	9-1-3	クリップボード・・・・・	39
10	報生書十	プミノコ `ノ・・・・	40
10	10-1 箭囲4	✓ ✓ ┙ ✓	40
	10-2 概要/	- ■ ム ページ設定	40
	10-2-1	◎ ~ ∞~ 実施者・補助者の欄の行数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
	10-2-2		40
	10-3 詳細/	~~~ うちょう こうしょう しょう うちょう うちょう うちょう うちょう うちょう うちょう う	40
	10-3-1		40
	10-3-2	詳細行	41
	10-3-3	】 測定場所説明······	41
	10-3-4	外気	41
	10-4 判定・		41
	I		
11	オフショ		42
	11-1 初期表	专示······	42
	11-1-1		42
	11-1-2	報告書画面の初期表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
	11-1-3	印刷時の項目選択初期値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
	11-1-4	ッールバー ・・・・・	42
		5	43
	11-2-1	報告書の測定点致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
	11-2-2	クフフ・・・・・	43
	-3 1 -3 1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1		44
	11-3-1		44
	11-3-2	(第日前即・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	44
	11 4 - 14	_ 日黒印刷 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	44
	11-4 旦揆[]	±	44
	11-5 1年厚9	ト 	44
	11-0 7/13		44
12	拡張機能		45
13	操作の流	n	46
14	注意事項		47
+`	ᄪᇇᅀᇩᅶ		7
ຄ	向い合わせ		4/

通信ソフトウェア ご使用に際して

ご注意

本ソフトウェアはお客様が本使用許諾契約の内容にすべて同意される場合にかぎり、お客様が本ソフトウ ェアを使用できるものといたします。パッケージを開封すると、本使用許諾に同意したものと判断いたしま す。インストール開始前に本使用許諾契約をよくお読みください。

お客様が本使用許諾契約に同意されない場合、本ソフトウェアは使用できないものとします。この場合は 柴田科学株式会社、または販売代理店に本ソフトウェアをご返却ください。当社規定の様式に従い、ご購入 代金をご返却いたします。

事前注意事項

本ソフトウェアのインストール、初期起動操作及びお客様のご使用のパーソナルコンピュータに関わる設 定はお客様ご自身で実行してください。

当社及び販売代理店では、当該ソフトウェアに関わるお客様のパーソナルコンピュータを直接操作することを禁じています。

(ハードディスクの大容量化のため、設定等に関わる操作を当社または販売代理店の担当者が行い、万一事 故が発生した場合にハードディスク保存内容の保証問題~訴訟問題に発展します。本件に関わる事故を防ぐ ためにもインストール作業、及び設定変更は必ずお客様側の責任において行ってください。)

インストール方法、操作方法が不明な場合はパーソナルコンピュータ本体の取扱説明書、または本ソフト ウェアの取扱説明書の該当部分をお読みください。

許可事項

使用許諾契約及び保証

- インストール CD または該当品から展開された実行型式ソフトウェアまた関連添付ファイルを1式だけ、 1台のコンピュータで使用すること。
- ・本ソフトウェアのコピーをバックアップの目的で1つだけ作成すること。または本ソフトウェアをコンピュータのハードディスクにコピーし、オリジナルの CD-ROM をバックアップの目的で保管すること。

禁止事項

- ・本ソフトウェアに付属している取扱説明書などの文書の複写及び、配布を行うこと。
- ・本ソフトウェアの一部または全部に関して、その使用権を再設定すること。
- ・本ソフトウェアのソースコードを調べたり、本ソフトウェアを模倣した製品を作る目的でリバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、修正、翻訳を行うこと。
- ・本ソフトウェアのバージョンアップ用の CD-ROM または以前のバージョンとそっくり置きかえられる新 バージョンを受け取った場合に、その後も本ソフトウェアの以前のバージョンまたはコピーを使用すること。

保証

- ・本ソフトウェアの機能には不具合が無いことを充分検証しています。これは本ソフトウェア開発段階における国内主要パーソナルコンピュータ製造社数社での検証となります。全世界のパーソナルコンピュータ及び周辺機器での動作は保証しかねます。この場合柴田科学株式会社は、動作に際し最大限の努力を行いますが、パーソナルコンピュータの個々の特性、内部インストール済ソフトウェア、また接続済周辺機器の環境状態によっては動作できない場合も考えられます。この際柴田科学株式会社が検証したパーソナルコンピュータ及び内部環境以外での動作不具合につき柴田科学株式会社での製造元責任は問われないものとします。
- 本書はお客様が本ソフトウェアに必ずや満足されることを保証するものではありません。また本ソフトウェアの内容にまったく誤りがないことを保証するものでもありません。

損害賠償

- 本使用許諾契約及び保証書補償条項の対象如何に関わらず、柴田科学株式会社は、特定の損害、間接損害、 その他本ソフトウェアのインストール、また操作による一切の責任を負いません。具体的な損害として、 本ソフトウェアの使用によって、お客様が何らかの利益を受け損なったり、データが消失してしまった場 合や、本ソフトウェアが使用不能になったりした場合も含まれます。そのような損害が生じる可能性につ いて柴田科学株式会社が以前から警告していたとしても、損害に対する責任を柴田科学株式会社が負うこ とはありません。
- ・どんな場合にせよ、柴田科学株式会社の賠償責任が、本ソフトウェアのご購入代金を超えることはありま せん。上記の責任限定、免除規定は、お客様が本ソフトウェアを返品するか否かに関わらず適用されます。

はじめに

本取扱説明書は、IES-4000 空気環境の測定報告書作成プログラムの使用方法について説明 しています。それ以外につきましては、別冊の取扱説明書をご参照ください。

1 動作環境

ES-4000 空気環境の測定報告書作成プログラム(以下本システム)は、以下の環境で 動作します。

① 動作オペレーティングシステム (以下 OS)	Windows XP SP3 以降(32bit) Windows Vista SP2 以降(32bit,64bit) Windows 7 SP1(32bit,64bit) Windows 8.1(32bit,64bit) ※RT を除く
② パーソナルコンピュータ (以下 PC)	上記 OS が稼動するパーソナルコンピュータ及び CPU:PentiumⅢ相当 1G Hz 以上
	.Net Framework4.0 ^{※1} 以上が必要になります。
③ メモリ	512MB 以上
④ ディスプレイ	動作 OS に対応したもので、800×600 256 色以上 の解像度で表示できるディスプレイ (1024×768 High Color 推奨)
⑤ ディスクドライブ	CD-ROM ドライブが必要 (プログラムインストールのため)
⑥ USB ポート	1 ポート必要 ^{※2}
⑦ ハードディスク	800MB 以上の空き容量が必要です。
⑧ プリンター	A4 対応のレーザープリンターまたはインクジェッ トプリンターを必要とします。 ^{※3}

- ※1 本ソフトの動作に必要となります。使用される PC にインストールされていない場合は、 CD-ROM からインストールをしてください。
- ※2 IES-4000 本体でのデータ保存媒体は USB メモリを使用します。本媒体を使用した環境を構築する必要があります。なお、USB メモリは IES-4000 では、最低 256MB 以上の容量でご使用いただけます。
- ※3 プリンター機器についてはメーカー問わず、600DPI以上出力可能な解像度対応機器を使用してください(カラー/モノクロとも可)。 プリンタードライバをインストールする際、極力メーカーから添付されている最新ドライバをご使用ください。最新ドライバについては購入メーカーのホームページよりダウンロードしてご使用ください。 このシステムについての印字関係は一部プリンタードライバに委ねていますので、ドライバ等によっては必ずしも鮮明に出ない場合がありますが、ご了承いただけますようお願い致します。

使用 PC、及び周辺機器につきましては、一般的な機材で動作を確認していますが、一部機種にお きまして正常に動作しない場合もあります。その際は当社営業所までご連絡ください。本仕様は特 性、機能に影響のない範囲で予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

2 測定報告書作成プログラムのインストール手順

- ※画面は Windows 8.1 の標準状態で説明しています。Windows XP, Vista, 7 はそれぞれの 画面の指示に従ってください。
- (1) 本ソフトの最初のインストールには ES-4000 本体の接続を必要とします。本ソフトを インストールしていない場合やアンインストールされている場合は(2)に進みます。
 PC に既に前のバージョンの ES-4000 報告書作成プログラムがインストールされてい る場合は接続せずに更新インストールすることが可能です。
- (2) PC と IES-4000 本体を USB(A-B) ケーブルで接続します。 本体側面のカバー内に USB 用のコネクタがあり、上側のコネクタになります。接続したら IES-4000 本体の電源を入れます。



PCにドライバがインストールされていない場合に接続するとドライバのインストール を要求されます。事前に https://www.sibata.co.jp/technology/technology-27640/ 「SIBATA 汎用 USB ドライバ(FT) インストール説明書」を参考にドライバのインス トールを行っておいてください (ドライバをインストールしていなくても報告書作成 プログラムのインストールは可能です。その場合はドライバのインストール要求をキ ャンセルしてください)。

(3) PC の CD-ROM ドライブにプログラム CD を挿入してください。

Windowsの設定によっては CD を挿入すると CD 内のファイルに対しての操作の問い合わせが表示されることがあります。この場合は「フォルダーを開いてファイルを表示」を選んでください。



問い合わせが表示されなかった場合は、画面下部にあるタスクバーのエクスプローラ ーアイコンなどからエクスプローラーを開いて CD-ROM ドライブのファイルを表示さ せてください。

Windows 7 アガゲーション アガゲーション シール Software	Windows 8.1		Windows 8	e	
アパケ-ション ツール Software - ロ × アパケーション ツール Software - ロ × アパケーション ファイル ホーム 共有 表示 管理 Participation アパケーム 共有 表示 管理 Participation Particon Particon Particon <	Windows 7				
アイル ホーム 共有 表示 管理 ● ② ※ 切り取り ● ③ ● ⑤ ● ○ </td <td>B I 🕞 B ≠ I</td> <td>アプリケーション ツール</td> <td>Software</td> <td></td> <td>- 🗆 🗙</td>	B I 🕞 B ≠ I	アプリケーション ツール	Software		- 🗆 🗙
$\begin{array}{c} \begin{array}{c} \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array}{} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \begin{array}{c} \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \begin{array}{c} \end{array} \\ \end{array} $	ファイル ホーム 共有	表示 管理			^ ()
クリップボード 整理 新規 間く 選択 ● ● PC + DVD RW Fライブ (R:) SIBATA IES4000 + Software + C Softwareの検索 ● HDD_MAIN (H:) ● HDD_SUB1 (1:) ● HDD_SUB2 (2:) ● DVD RW Fライブ (R:) SIBATA IES4000 ● DVD RW Fライブ (R:)	L'- 貼り付け K 切り取り L'- 貼り付け ぼ シュートカット	の貼り付け 移動先 コピー先 削除 名前の 変更	 新しい項目・ 新しい ショートカット・ デォートカット・ 	□/テティ □ 編集 プロパティ 2 編集	 記 すべて選択 認 提択解除 提択の切り替え
 ◆ ◆ ◆ ● PC ◆ DVD RW ドライブ (R:) SIBATA IES4000 ◆ Software ◆ ◆ ◆ Softwareの検索 ◆ ● Softwareの検索 ◆ ● Softwareの検索 # HDD_MAIN (H:) ● HDD_SUB1 (1:) ● HDD_SUB2 (2:) ● Dviver ● Software ● Software ● Software ● Dviver ● Software ● Software ● Software ● Dviver ● Software ● Software	クリップボード	整理	新規	開く	選択
● ポリエーム (D:) ● HDD_MAIN (H:) ● HDD_SUB1 (I:) ● HDD_SUB2 (2:) ● DVD RW F5r7 (R:) SIBATA IES4000 ● Driver ● Software 4個の項目 1個の項目を選択 428 KB 種類: アプリケーション, サイズ: 428 KB, 更新日時: 2012/11/09 16:38 428 KB ● コンピューター		- DVD RW ドライブ (R:) SIBATA IES4000 →	Software + v	C Softwareの検	索 ク
種類: アプリケーション, サイズ: 428 KB, 更新日時: 2012/11/09 16:38 428 KB ■ コンピューター	 ● ボリエーム (D:) ● HDD_MAIN (H:) ● HDD_SUB1 (I:) ● HDD_SUB2 (J:) ● DVD RW ドライブ (R:) St ● DVD RW ドライブ (R:) St ● Software 	IBATA IES4000 A 428 KB	種類 サイズ して WindowsInstall er3_1	IES4Setup	>> Setup
	種類: アブリケーション、サイズ: 428	w、 92010 KB, 更新日時: 2012/11/09 16:38	428	KB ⊯⊐>ł	<u></u> ピューター

- (4) CD の Softoware フォルダ内の「Setup」 ファイルをダブルクリックして実行してください。
- (5).Net Framework4.0 がインストールされていない場合、.Net Framework4.0 のインストー ルが開始されます。インストール済みの場合には、(6)に進みます (Windows 8/8.1 は 標準でインストール済みとなっています)。

インストールを開始すると Windows のバージョン と設定によってはセキュリティのために右図のよ うなダイアログを表示することがあります。 実行しようとしているプログラムが正しければ [はい(Y)]を選んで進めてください。

「同意する(A)」にチェックを入れ、画面 の指示に従ってインストールを行ってく ださい。

	· — -	
💨 Microsoft .NET Framework 4 🖯	ビットアップ	
.NET Framework 4 セットアップ 続行するには、ライセンス条項に同	憶してくだざい。	Microsoft .NET
マイクロソフト ソフトウェア: MICROSOFT WINDOWS 2	追加ライセンス条項 オペレーティングシステム用 MICRI	A ISOFT.NET V
p 回意する(<u>A</u>)		
推定ダウンロードサイズ: 推定ダウンロード時間	0 MB ダイヤルアップ: 0 分 プロードパンド: 0 分	
	(A)	レストール(D) キャンセル

ユーザー アカウント制御

プログラム名: dotNetFx40_Full_x86_x64.exa 確認済みの発行元: Microsoft Corporation ファイルの入手先: このコンピューター上のハードドライブ

dotNetFx40_Full_x86_x64.exe

はい(Y) いいえ(N)

これらの通知を表示するタイミングを変更する

? 次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか?

詳細を表示する(D)

×

(6)報告書作成プログラムがインストールされていない場合や本体を PC と接続していない場合には右図のようなメッセージが表示されてインストールが行えません。この場合は、いったんインストールを終了して(2)からやり直してください。



(7)次に IES-4000 空気環境の測定報告書作成プログラム作成のセットアップが開始されます。[次へ(N)>]をクリックします。



(8) ライセンス条項

使用許諾書を読み、同意できる場合には「同 意する(A)」を選択し[次へ(N)>]をクリック します。

谩	IES4000 空気	環境の測定報告書作成プログラム	-	= ×
ライセ	ンス条項			
ライセン) ちじ太へ]	へ条項をお読みくださ をクリックしてください	9、。以下の条件に同意される場合は[同意する] 、。その他の場合は[キャンセル]をクリックしてく	をクリッ ださい。	っしてか
使用 1 (1) す (2) よ	件諾書 本ソフトウェフ 「本ソフトウェフ るデータ、プロ・ 。 「本ソフトウェ り2次的に作成し	ー アについて ェフ」とは、ブログラム本体、ブログラ グラム本体とデータの記録メディアを打 ェフ」には使用者が「本ソフトウェア」 ・たデータは含まれません。	・ムに付 急味し の実行	す随 ま flc
	(古田15			~
 同類 	歌しない(<u>D</u>)	 同意する(A) 		
		キャンセル < 戻る(<u>B</u>)	次	<u> </u>

(9) インストール選択

インストールするプログラムの種類が選べま す。 報告書作成プログラムと、連続測定用プログ ラムのインストールしたいプログラムにチェ ックを入れます。

[次へ(N)>]をクリックして次に進みます。

谩	IES4000 空気環境の測定報告書作成プログラム	-	□ ×
インス	ストール選択		
インスト	ールするアブリケーションを選択してください		
✓ 2	2気環境の測定報告書作成プログラム		
₩ 1	■統制定用データサンプリングプログラム		
	キャンセル < 戻る(B)	%	<u>ر~(N) ></u>

(10) インストールするフォルダの選択インストール先のフォルダを変更することができます。

インストールを行っているユーザーアカウ ントのみで使用できるようにする場合は「こ のユーザーのみ」を選択します。 通常は「すべてのユーザー」にします。 [次へ(N)>]をクリックして次に進みます。

(11) インストールの確認

インストールを行うかの確認が表示されま す。

問題なければ、[次へ(N)>]をクリックして 次に進みます。





インストールを開始すると Windows のバー ジョンと設定によってはセキュリティのた めに右図のようなダイアログを表示するこ とがあります。

実行しようとしているプログラムが正しけ れば [はい(Y)] を選んで進めてください。

(12) インストールが完了したら、[閉じる(C)] をクリックし、インストールを終了します。



遢	IES4000 空気環境の測定報告書作成プログラム - 🗆 🗙
イン:	ストールが完了しました。
IES400	00 空気環境の測定報告書作成プログラム は正しくインストールされました。
終了す	するにはよ、【閉じる】をクリックしてください。
ue-de-	
Window	ws Update で、NET Framework の重要な更新かめるかとうかを雑記してくたさい。
	キャンセル 〈戻る(B) 開じる(C)

(13) USB ケーブルを接続してインストールを行った場合は、USB ケーブルを取り外します。

3 USBメモリの取り外し

USB メモリを接続して登録作業や報告書作成を行っている間は、常に USB に読み書き しています。

そのため、書き込み中に USB メモリを抜き取ると USB メモリ内のデータが不完全となり破損することがあります。

USB メモリを抜き取りたい場合は、以下の手順に従って解放を行ってください。

報告書作成ソフトのウィンドウの左下 に、現在作業を行っているドライブ名が 表示されます。

表示されている場合は通信が行われる ため、抜かないようにしてください。

報告書作成の作業中の場合は、作業が失われないように報告書を保存してください。

メニューのファイルにある [閉じる] を クリックすると、作業中のファイルが閉 じられて USB メモリを解放できるよう になります。



\otimes			IE	S 空気環
ファイ	ル(F)	編集(E)	表示(V)	ツール(T)
	IES∕₿	R存ファイルを	È開く(I)	いを
Q	報告	書ファイルを	開<(O)	直取
	報告	書を保存(S)	7
	報告	書基本値保	存(D)	
-	印刷	(P)		•
	閉じる	5		
	終了			Ľ



タスクバーの USB マークを右クリックして USB メモリの取り出しを行います。 (ほかに使用中のファイルがある場合には取り外せないことがあります)

4 プログラムの起動

4-1 Windows 8/8.1

画面の左下にマウスを移動させる、タッ チ画面でタッチする、またはキーボード の [Win] キーを押すことでスタート画 面が表示されます。

スタート画面にピン止めしている場合 は右図のような報告書作成ソフトのア イコンが表示されます。

このアイコンをクリックまたはタップ すると起動できます。





スタート画面に表示されていない場合 は、画面左下の矢印をクリックもしくは タップする、またはキーボードの [Win] キーを押すことでアプリ画面に切替わ ります。





スタート画面から上図のアイコンを探して、クリックまたはタップすると起動できます。 頻繁に使う場合はアイコンを右クリックもしくは長押しで表示されるメニューで「ス タート画面にピン止め」するとスタート画面に表示させることができます。

 (\mathbf{I})

画面左下のスタートボタンもしくは [Win] キーを 押してスタートメニューを表示させ、「Sibata」フ ォルダ →「IES4000」フォルダの中にあるアイコ ンを選んで起動します。



4-3 Windows 共通

デスクトップに配置されているアイコンを ダブルクリックすると起動できます。 アイコンの大きさはデスクトップアイコン の表示設定によって変化します。 設定によってはデスクトップにアイコンが 表示されていない場合もあります。



4-4 起動直後の画面

8	IES 空気環境の測定報告書作成プログラム - ロ
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) ヘルプ(H)	整保存 🖶 全印刷 📲 選択中印刷 🖃 表示中印刷 💷 空白印刷 100% 👘 📮 📮 其目 🖕
m S %RH	SIBATA 室内環境測定セット IES-4000 mg/m ³ 空気環境の測定報告書作成プログラム Ver1.11

5 画面構成と操作方法

5-1 画面

5-1-1 共通画面



ツールバー左端をマウスでドラッグするとツールバーを移動できます。またオプショ ンでウィンドウの上下左右に配置することも可能です。

5-1-2 報告書作成情報の保存フォルダ選択画面



- フォルダー覧 PC に接続されているハードディスクや USB メモリドライブと、 各ドライブにある IES 用の保存フォルダが一覧表示されます。 IES 保存フォルダが見つかった場合はフォルダ名の左に黄色の アイコンが表示されます。
- ② フォルダ更新 USB メモリを後から接続した場合などで一覧に目的のドライブ が見つからない場合に再検索させます。
- ③ 読み込み 一覧で選択したフォルダを管理もしくは報告書作成のために読み込みを行います。
- ④ 直接読み込み 一覧にない場所に保存されている場合に読み込みを行います。
- ⑤ 修復 一覧で選択されているフォルダの内容が破損している場合に修 復を行います。
- ⑥ 初期化 一覧でIES-4000(報告書)もしくはIES-4000(連続測定)を選択し、
 [初期化] ボタンをクリックするとフォルダを作成します(フォルダ名の左に黄色のアイコンが表示)。
 フォルダが作成された状態で[初期化] ボタンをクリックすると
 フォルダ内のデータを初期化します(フォルダ名の左、黄色のアイコンは消えません)。

5-1-3 報告書作成情報フォルダで行う作業内容の選択画面



- 測定した回数と最後に測定した日時の一覧が表示されます。
- ② 報告書作成 選択されている建築物の報告書を作成します。
- 管理 作業者登録や建築物の登録と順路作成などの管理を行います。

5-1-4 各種管理画面

IES 保存ファイルを開いて登録作業を行うときに表示される画面です。

5-1-4-1 作業者管理画面



- 作業者操作 作業者の追加・削除・並べ替えを行えます。
- 作業者一覧 登録されている作業者の一覧が表示されます。

作業者識別用の D と名前を入力できます。

③ インポート IES-3000 の報告書作成ソフトで登録していた作業者を取り込んで追加を行えます。

⇔:マウスで大きさを変更できます。

作業者名は覧報告書作成画面の概要ページでの選択でも表示されます。

5-1-4-2 建築物管理画面



5-1-5 報告書作成画面

5-1-5-1 用紙画面

報告書作成画面は 100%の設定で A4 横サイズの大きさで表示されます。 ※ディスプレイの DPI を正しく設定している場合

作業ページを切り替えることで表 紙・概要・詳細・グラフを切り替え られます。また、グラフはさらに温 熱条件・清浄度・照度騒音に表示を 切り替えることができます。



項目は表紙では表紙のページ数を表し、スライダーを動かすとページが切り替わります。 詳細とグラフでは測定場所の数を表し、スライダーを動かすと表示される測定場所が 切り替わります(詳細では表の右側に同等のスライダーが表示されます)。



表紙



概要(測定値まとめ)



詳細(測定値全体)



グラフ(温熱条件)



グラフ (空気清浄度)



グラフ(照度騒音)

5-2 メニュー

5-2-1 ファイル

IES 保存ファイルを開く	:	IES-4000本体が読み書きできる形式の保存ファイルの初 期化・登録管理、または読み取って報告書を作成します。
報告書ファイルを開く	:	報告書形式になっているファイルを開きます。
報告書を保存	:	報告書を報告書形式 (IES4,IES4T)、CSV 形式、EXCEL2007
		形式(XLSX)で保存します。
報告書基本値保存	:	報告書作成時に使用する建築物毎の基本値を保存します。
印刷	:	報告書をプリンターで印刷します。
閉じる	:	報告書を閉じます。
終了	:	報告書作成ソフトを終了します。

5-2-2 編集

クリップボードへ	:	報告書の内容をクリップボードにコピーします。
候補編集	:	報告書の概要での概評欄と詳細での備考欄で右クリッ
		クから入力可能な候補を登録できます。
報告書 Option	:	報告書での範囲外書式や表示される項目数などの変更
		ダイアログを表示します。
表紙-表紙追加/削除	:	報告書の表紙を複数枚に追加や削除します。
概要-検印欄追加/削除	:	報告書の概要で検印欄を追加や削除します。
詳細−温度差/照度/騒音	:	報告書の詳細で該当列を表示するかを選択します。
詳細−記録編集	:	報告書の測定記録の値編集や並べ替えのダイアログを
		表示します。

5-2-3 表示

ツールバー-標準/項目	:	ツールバーの表示・非表示を選択します。
ズーム	:	作業領域に表示される内容の拡大縮小を行えます。

5-2-4 ツール

オプション	:	報告書作成ソフトのオプションを変更できます。
拡張機能	:	報告書の表紙に入力項目や画像を追加するなどの拡張
		機能を有効にできます(有効化に関しては当社営業へ
		お問い合わせください)。

5-2-5 カスタム(拡張機能が有効の場合のみ)

:

標準部品として登録	:	現在の表紙へ追加済みカスタム部品を、今後作成する報
		告書に自動で追加される標準部品として登録します。
標準部品追加	:	登録済みの標準部品を現在の報告書に追加します。
部品編集	:	カスタム部品の追加作業ウィンドウを表示します。
全部品削除	:	現在の報告書の表紙からすべてのカスタム部品を削除
		します。

5-2-6 ヘルプ

ヘルプ	
バージョン	

6 各種登録作業

測定する前の「作業者名」「建築物名」「建築物場所」「予定順路」の登録方法を説明します。

6-1 データ構造



※4回以上の測定も可能ですが、報告書で表示可能な回数は3点までになります。 測定記録は、無効にした記録を含めて合計400回分まで保存可能です。

USB メモリ1つにつき保存フォルダを1つ作成することができます。

IES-4000はUSBメモリに登録された上図の構造の情報を元に測定の記録を行います。 あらかじめ PC で USB メモリに情報を登録しておくことで、登録された情報を IES-4000本体の画面上で参照することができるようになります(情報を登録していな い場合は標準の名前が使用されます)。

USB メモリは単一パーティションでフォーマットが FAT 形式の必要があります。

その他の形式の場合は PC 上では読み書きできますが、IES-4000 本体は対応していないため読み書きすることはできなくなります。

USB メモリの内容が暗号化されている場合、ES-4000本体では暗号を復号できないため読み書きすることはできません。

6-2 保存フォルダの操作

6-2-1 保存フォルダの検索

8	\otimes
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) へ	ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) へ」 □ IES保存ファイルを開く(I) (ルを開く
	↓ 報告書ファイルを開く(O)

ツールバーもしくはファイルメニューの [IES 保存ファイルを開く] を選択します。 ※「IES-4000 本体で読み書き可能な形式のファイル」を開く操作です。

ドライブ選択ウィンドウが表示され、PC に接続 されている USB メモリやハードディスクがドラ イブ一覧として表示されます。

表示後にUSBメモリを接続するなどしてドライ ブー覧に表示されていない場合は、左上の「更新] ボタンをクリックすることで再検索し最新の状 態に更新されます。

USB メモリなどで低速ドライブが含まれる場合には、検索に時間がかかります。



USB メモリのようなリムーバブルドライブの場合は、ドライブ名の右にはフォーマットが表示されます。IES-4000 本体は FAT のみ読み書きできるため、IES-4000 本体に 接続する予定のメディアであれば FAT であることを確認してください。

PC に接続されているすべてのドライブで IES-3000 の報告書と、IES-4000 の報告書 と連続測定の保存データが自動で検索され、検出されたフォルダの名称の左に黄色の フォルダアイコンが表示されます。

図の状態では D ドライブに IES-4000 の報告書フォルダと連続測定フォルダが、E ド ライブに IES-4000 の報告書フォルダが検出された状態となっています。

6-2-2 保存フォルダの作成と初期化

一覧から IES-4000 の報告書または連続測定を選択すると [初期化] ボタンが有効になります。[初期化] ボタンをクリックするとそのドライブに保存フォルダを作成できます。

既にフォルダが存在する場合は、既存の登録内 容をすべて消去して初期化されます。 確認のダイアログが表示されますので、初期化 してもよければ [OK] を選択します。

確認	×
図に存在しているファイルが上書きされますがよろしいですか? 登録してある建築物や測定記録は消去されます。	
<u> のK</u> キャンセノ	1

作成と初期化時には大量のフォルダとファイルを作成するため、USB ドライブを初期 化すると時間がかかりますので、しばらくお待ちください。

6-2-3 フォルダの修復

データ書き込み中にUSBメモリを抜き差ししたり、電源 を切ったりしたなどの理由でUSBメモリに保存されてい る内容が不正になる場合があります。 ファイルを間違えて書き換えて正しくない状態になって いる場合も同様です。 そのような状態で読み込みを行うと、読み込みに失敗する場合があります。

てのような状態で読み込みを打って、読み込みに天奴する場合がありよす。 しかし、読み込みに失敗した場合でも可能な範囲で修復を試みることができます。 修復したいフォルダを選んで、[修復] ボタンをクリックします。



フォルダーの参照ダイアログが表示されますので、修復した内容を書き出すフォルダ を選んでください。

USB メモリが劣化してフォルダが不正 になっているような場合には、同じUSB メモリに書き込みを行うと劣化が進み、 障害が拡大する可能性があります。別の ドライブに書き出しを行うことを推奨 します。

USB メモリを PC から認識できない場合 は修復作業を行うことはできません。ま た、本体で読み書きする USB メモリの 内容の修復を想定しているため、既定の フォルダのみ修復対象になります。



□ 改行コードは正しい位置にのみ有るとみなす。

チェックを入れると改行コードではなくデータ量で記録を分割します。 改行コードが破損している場合に正しい記録数を修復できる可能性が高いです。

□ 削除済みと考えられる測定日時が古いデータも復元する。

チェックを入れると破損のため削除と判定されてしまう測定記録も修復を試みます。 意図的に削除した記録や以前の記録も含めてすべて復元対象となります。

フォルダの内容は可能な限り修復を試みますが、破損の状態によっては回復できずに 失われることがあります。

6-2-4 読み込み

6-2-4-1 ドライブ一覧から選択

読み込みを行いたい報告書保存フォルダが見つ かった場合、その報告書用保存フォルダを選択す ると [読み込み] ボタンが有効になります。

[読み込み] ボタンをクリックすると、報告書フ オルダの読み込みが行われます。



6-2-4-2 任意の場所から選択

検索された一覧に読み込みを行いたい報告書保存フォルダが見つからない場合は、既 定のフォルダ以外に保存されていることが考えられます。その場合は既定のフォルダ 以外の場所に保存されている報告書作成用の情報フォルダを選んで読み込みを行いま す。ウィンドウの左下の[直接読み込み]ボタンをクリックします。



フォルダーの参照ダイアログが表示されますので、保存フォルダを探して選択してく ださい。選択したフォルダが IES 保存フォルダであると判定された場合は [OK] が有 効になります。[OK] をクリックすることで読み込みが行われます。

6-2-5 建築物一覧の表示

	x				
順番 建	物番号	建物名称	測定件数	最終測定日時	
1	0		0		報告書作成
					管理
					Cancel
					Cancer

報告書フォルダを読み込みすると、登録済みの建築物を測定数と最終測定日時を含む 一覧で表示します。測定を行う作業者や建築物の情報の登録・削除等の作業を行いた い場合には[管理]ボタンをクリックし、管理画面を表示して行います。

6-3 作業者登録

6-3-1 作業者の追加

[追加] ボタンをクリックすると作業者 を最大 100 人まで追加できます。

82	這加	削除	ŧ	ŧ	Ŧ	₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽ ₽	Ŧ
作業者I	[D	ť	F業	皆名			
	1						

6-3-2 作業者の削除

[削除] ボタンをクリックすると一覧で選択されている作業者を削除します。

6-3-3 作業者の表示順変更

上下の矢印をクリックすると選択されている作業者の並びが上下に移動します。 または選択した作業者をマウスのドラッグ&ドロップで任意の並びに移動できます。

6-3-4 作業者のインポート

IES-3000の報告書作成ソフト(IES-3000IRP)で作業者を登録していた記録ファイルがある場合に、そのファイルから作業者を取り込むことができます。

[インポート]ボタンをクリックすると ファイル選択ダイアログが表示されま す。 IES-3000 用の記録ファイルを選択して 開いてください。

標準のファイル名は「User.mdb」です。

8		開	<		×
€ 🤄 ד ↑ 📾	PC → HDD_SU	JB2 ⊧	~ Ċ		×
整理 ▼ 新しいフォ	tルダー			**** *	
 ドキュメント ピクチャ ビデオ 		Î	IES4000I		
₩ ミュージック			User.mdb MDB ファイル 232 KB		
👝 リムーバブル ディン	スク (E:)	~			
	ファイル名(N): User	r.mdb	~	IES3000ユーザーファイ 開く(O)	ブル(User.m マ キャンセル .::

取り込みが成功すると右図のウィンドウが表示されます。 取り込みを行うときに現在の登録済みの作業者Dと重複 するDの作業者がES-3000の記録ファイルにも存在し ている場合、どちらか一方のみを登録することが可能です。

「既存との重複時の処理」でどちらを残すか選択します。 「重複は無視」の時は登録済みの名前を、「重複は上書き」 を選ぶと IES-3000 での名前を登録します。

	取り込み ×
作業者ID	名前
9876	Worker1
9900	Worker2
10000	Master
既存との重複時 ○重複は無視 読み込み方法 ○全体を読み近 □ファイル選択	の処理 ○ 重複は上書き 込み [●] 選択のみ読み込み 読み込み 閉じる

[読み込み]をクリックすると登録処理が実行されます。

「全体を読み込み」を選んでいると一覧に表示された作業者全てを、「選択のみ読み込み」を選んでいる場合は一覧で選択している1名だけが登録処理されます。

6-3-5 作業者の基本情報編集

作業者の ID には重複しない 6 桁までの数値を入力できます。 作業者名は半角で 20 字(全角で 10 字相当)まで入力できます。漢字等も入力可能で すが、IES-4000 本体が認識できない文字の場合は正しく表示できないことがあります。

6-4 建築物登録

6-4-1 建築物の追加

[追加] ボタンをクリックすると建築物を最大 200 物件 まで追加できます。

(In	自追加	削除 🛉 🦊 📮 🤅 🛃 インパ	ポート _∓
順番	建物番号	建物名称	測定件数
1	0		0

6-4-2 建築物の削除

[削除]ボタンをクリックすると建築物一覧で選択されている建築物を削除します。 保存されている測定記録も削除されるので注意してください。

6-4-3 建築物の複製

建築物一覧を選択し、右クリックして表示されるメニューで[コピー]を行うと測定 場所と測定順がクリップボードにコピーされます。

次に複写先の建築物を選択して同様に貼り付けを行うと、コピー元の測定場所と測定順が複写されます。

※建物番号と建物名称は複写されません。

6-4-4 建築物の表示順変更

上下の矢印をクリックすると選択されている建築物の並びが上下に移動します。 または選択した建築物をマウスのドラッグ&ドロップで任意の並びに移動できます。

6-4-5 建築物のインポート

IES-3000 の報告書作成ソフト (IES-3000IRP)で建築物を登録していた 記録ファイルがある場合に、そのファイ ルから建築物を取り込むことができま す。[インポート] ボタンをクリックす るとファイル選択ダイアログが表示さ れます。IES-3000 用の記録ファイルを 選択して開いてください。

標準のファイル名は「User.mdb」です。

現在の登録済みの建物番号と重複する建築物が IES-3000の記録ファイルにも存在している場合、どち らか一方のみを登録することが可能です。

○ 新規建物として追加

新しい建物番号を追加して登録を行います。

○同じ建物番号に上書き

同じ建物番号の建築物に上書きして登録を行います。

○ 選択されている建物番号に上書き

建築物一覧で選択されている登録済みの建築物に上 書きして登録を行います。

既存の登録済み建築物が上書きされる場合は、インポー ト先の建物に上書きされる建築物が表示されます。 [読み込み]をクリックすると登録処理が実行されます。



	取り込み ×
建物番号	建物名称
1	BuildingA
2	BuildingB
読み込み方法	
● 新規建物とし	って追加
○ 同じ建物番号	号に上書き
○ 選択されてい	る建物番号に上書き
インポート先の建	物
順番 建物番号	建物名称 建物名称
ロファイル選択	読み込み 閉じる

6-5 建築物の情報編集

6-5-1 建築物の基本情報編集

建物番号0	建物名称
測定場所 틙 💧 🛡	順路消去 順路自動割り当て

建築物一覧で選択されている建築物の建物番号と建物名称を入力できます。 建物番号は重複しない 10 桁までの数値を入力できます。

建物名称は半角で24字(全角で12字相当)まで入力できます。漢字等も入力可能で すが、ES-4000本体が認識できない文字の場合は正しく表示できないことがあります。

6-5-2 建築物の測定場所(測定ポイント)情報編集

建物翻	番号 1	234		建物名称な	ΞŢ	ものめい1						
測定均	昜所 🛛	1	t 1	順路消去	順	路自動割り当て						
有効	#° 1/2	階数		測定場所名1		測定場所名	2		1回目	2回目	3回目	\sim
\checkmark	0	0	屋外			玄関前		+	1	4		
\checkmark	1	0	玄関			ロビー		+	2	5		
	2	0	事務	室1		入口A						
~	3	0	事務	室2		入口B		+	3	6		

有効 : チェックを入れると利用可能な測定場所として有効にできます。 ここで有効にしない場合は、IES-4000 本体で表示されなくなった り、報告書の編集時に表示されなくなったりする場合があります。 しかし、表示されなくなるだけで IES-4000 での測定は行うことは 可能です。順路を設定してある場合は、無効にできません。

ポイント : IES-4000 本体ではこの順番で表示されます。

階数 : 測定場所の階数を入力します。マイナスでは地下扱いとなります。

測定場所名 : 測定場所の名前や説明を半角で24字(全角で12字相当)まで入力
 1/2 できます。漢字等も入力可能ですが、IES-4000本体が認識できない
 文字の場合は正しく表示できないことがあります。

(+) : 有効としてチェックされている場所で、3回分の順路が登録されていない場合にボタンが表示されます。 クリックした順に測定順路が登録されます。

1/2/3回目 : 測定する予定の順路の順番が表示されます。

6-5-3 建築物の測定順路の編集

順路設定は予定であり、予定外の順番で測定を行うことは可能です。

6-5-3-1 個別登録

一覧に表示される緑色の十ボタンをクリックした順に測定順路が登録されます。

6-5-3-2 自動登録(並び順)

1回から3回までの繰り返し測定を行う予定の場合、[順路自動割り当て]ボタンから 繰り返し回数を指定して、自動登録が行えます。 登録順は一覧の並び順で割り振られますので、一覧のタイトルをクリックして並び替

えを行うか、上下移動で並び替えを行っておく必要があります。

6-5-3-3 自動登録(測定記録順)

建築物が測定済みで、その測定順を今後の順路としたい場合に[順路自動割り当て] ボタンから[測定記録の順路に合わせる]で順路として登録が行えます。

6-5-3-4 順路消去

測定順をすべて消去して最初から順番登録をやり直します。 ※個別に順路削除することはできません。

6-5-4 建築物の情報の印刷

- ボタンで建築物の測定場所と測定順路の印刷が行えます。

6-6 測定記録の消去

:追加 削除 🔶 🖡 🚦	ひんしょう ひょうしょう	建物	番号1		建	物名称淇	川定ビル	_			
順番 建物番号 建物名称	測定件数	測定 [」]	昜所 🛯		↓ 順	路消去	順路自動割り当	τ			
1 1 測定ビル	3	有効	ホ° 1∕1⊦	階数	測定場所	所名1	測定場所	所名2	1回目	2回目 3回目	^
		\checkmark	0	1 外	気		西側	+] 1	6	
		\checkmark	1	1 🗆	ピー			+	2	7	
		\checkmark	2	2 総	務			+	3	8	
		\checkmark	3	3 企	画			+] 4	9	
		\checkmark	4	4 営	業			+] 5	10	
			5	0							
			6	0							
			7	0							
			8	0							
			9	0							
			10	0							\sim
<	>	報告	書作成	測定	記録消去	現在の測	定記録件数=3	最終測定日時	=2013	3/09/20 10:	:35:(

建築物一覧で選択されている建築物に測定記録が含まれている場合、[測定記録消去] ボタンで測定記録のみ消去できます。建物の番号・名称・場所・順路は消去されません。

消去すると測定記録は元に戻せなくなります。

7 報告書作成

7-1 作成

7-1-1 測定済みの記録からの新規作成

USB メモリに保存されている IES 保存ファイルから報告書を作成します。



	順番	建物番号		建物名称	測定件数	最終測定日時	^	(
	1	1001	たてもの 1		1	2014/09/29 14:00		報告書作成
5	2	1002	建築物 2		0			
	3	1	本社ビル		3	2014/09/29 13:58		管理
(5)	4	2	別棟		0			
	5	9	研究棟		0			
	6	777	○×ビル		0		\sim	\bigcirc
								Cancel

- ① [IES 保存ファイルを開く] をクリックします。
- ② 一覧からドライブ内で見つかった報告書フォルダを選択します。
- ③ [読み込み] ボタンをクリックします。
- ④ 一覧にない場合は [直接読み込み] ボタンをクリックして保存フォルダを探して 開きます。
- ⑤ 保存フォルダ内の建築物一覧から報告書を作成したい建築物を選択します。
- ⑥ [報告書作成] ボタンをクリックします。または、⑦の [管理] ボタンを選んで 建築物管理画面を表示して、⑧ [報告書作成] での作成も可能です。

	1 追加	削除 🔶 🖡 🝦	ト	建物番	号10	01 建	物名称たてもの1	_	
順番	建物番号	建物名称	測定件1~	測定場	所 🖷		順路消去 順路自動割り当て	C	
1	1001	たてもの 1	フ ピー	or units (P	皆数 測定場	所名1 測定場所	名2 1回目 2回	3回目
2	1002	建築物 2	いたけ	Ctrl+\	,	0 屋外	玄関前	+ 1	
3	1	本社ビル	却生毒作品	Carri	_	0 玄関	oĽ–	+ 2	
4	2	別棟			2	0 事務室1	入り口A	+ 3	
5	9	研究棟	4	\checkmark	3	0 事務室1	入り口B	+ 4	
6	777	O×ビル		\checkmark	4	0 検査室	階段横	+ 5	
7	0			\checkmark	5	0 休憩室		+ 6	
8	3			\checkmark	6	0 社長室		+ 7	
9	4		~	報告書	影作成.	測定記録消去	現在の測定記録件数=1	島終測定日時=2014/(9/29 14.0
<					11174	(MIAC BUSINESS) ->011->>>03ACBD9411-9A-1-3		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
			8						

7-1-2 既存の報告書の編集

すでに報告書形式として保存しているファイルの報告書を、メニューもしくは標準ツ ールバーの[保存ファイルを開く]で開きます。

あるいはエクスプローラーでファイルをダブルクリックしても開くことができます。 アイコンをダブルクリックすると起動できます。

アイコンの大きさは表示設定によって変化します。

また、タスクバーにピン止めしている場合 や実行中のタスクバーで右クリックをする と表示される、最近使った報告書ファイル の一覧からも開くこともできます。

7-2 編集

7-2-1 表紙

[表紙]をクリックします。

7-2-1-1 項目編集

背景色が水色になっている箇所に自由に文 字を入力することが可能です。

※印刷時には水色は印刷されません。

項目の多くは「報告書基本値保存」で建築 物固有の値として保存しておき、次に報告

書を作成するときにも反映されるようにすることが可能です。

表紙上段の入力部はその報告書の表紙で共通になります。

下段の入力部は、表紙を複数枚にしている場合は表紙毎に異なる文字列を入力するこ とが可能です。

7-2-1-2 項目表示

表紙下段の 4 項目は左のチェックボッ クスを外すことで表示しないようにで きます。

☑ 登録番号	1 第2 号
☑ 名称	めいしょう
☑ 代 表 者	だいたとうしゅめい



最近使ったもの
 ※ IES4000報告書作成 → タスク バーにどン留めする ▲ ウィンドウを閉じる
IES 空気環境の

中

IES-4000

小

 \otimes

大

IES-4000

7-2-1-3 作成日編集

表紙右上の日付は、報告書を作成した日になりま す。「報告書作成日として固定する」にチェック されていない場合は、報告書を開いた日付になり ます。

日付の右にあるボタンをクリックするとカレン ダーが表示され、変更することが可能です。

中央日付部分で選択された日付が設定されます。 [今日]と表示されている部分をクリックすると 今日の日付が設定されます。

- ≪.≫ 年を前後に移動します
- <.></>
 </>
 月を前後に移動します

再下段は日付の書式設定になっています。 チェックボックスを入れると和暦になり、外すと西暦になります。 元号(ただし Windows に登録されている元号の場合のみ) gg 和暦年の下2桁で表示 уу уууу 西暦 4 桁で表示 月を1桁か2桁で表示 Μ MM 月を2桁で表示 d 日を1桁か2桁で表示 d 日を2桁で表示 ddd 曜日

7-2-2 概要

[概要]をクリックします。

7-2-2-1 項目編集

背景色が水色になっている箇所に自由に文 字を入力することが可能です。 ※印刷時には水色は印刷されません。

7-2-2-2 建物名称

建物名称は表紙で入力した建物名が表示されます。

7-2-2-3 測定年月日

測定年月日は欄の右端のボタンをクリック するとカレンダーが表示され表紙の作成日 編集と同様に変更することが可能です。

7-2-2-4 実施者·補助者

実施者と補助者を記入できます。

欄の右端をクリックすると各種登録作業の作業者登録(P24)で登録した作業者の一 覧が表示され、選択した作業者名が入力されます。

[報告書ファイルを開く]から報告書を作成していない場合、登録されている作業者 がありません。その場合は、ツールバーの[作業者のみ読込]で既存の報告書フォル ダに登録されている作業者を参照することができます。



平成 26 年 10 月 21 日 🛐 🛛

✔ 報告書作成日	«	<	1 20	14/	10	>	>
	日	月	灭	永	木	金	土
	28	29	30	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
	2	3	4	5	6	7	8
		今日	<u> 1</u> 2	014	/10	/21	
	√ 55	YYYY	年ᅢ	≤月	dd Ħ		

神筋物	計算	法生管理基础	1	PW	不適簡新数 /	(1880-197) ×
测定项目	Ĩ.	基準値	最高值	最低值	创定箇所数	
温度	85	17 ≈ 28 °C	29.6°C	0.1°C	187 292	
相对温度	N	$40 \sim 70$ XEH	100.0289	0.3%H	202 292	
気液	値	0.5 n/seck/F	4.00a/sec	<0.05m/sec	43 292	
二酸化良素 (002)	平	1000 ppe以下	1815ppm	2ppm	53 88	
一酸化炭素 (00)	均	10ppel/F	16.4ppm	1.7ppm	49 88	
今週粉じん量	(in	0118 ng/n ³ 以下	1.000ng/n'	0.031ng/n°	63 88	
<u>特 記 事 1</u>	10					

建築物名称		
則定年月日	平成 26 年 10 月 21 日	31
実施者		~
補助者		~
補助者		~
補助者		~
	さぎょうしゃ1	
	なまえ	
	しめい	

7-2-2-5 検印欄編集

メニューの編集 → 概要またはツール バーの [検印欄追加] / [検印欄削除] をクリックすると、概要ページの左上 に検印欄を追加することができます。

追加は右方向に行われ、 削除は右側から行われます。削除する と検印の文字は戻せなくなります。

	空	気瑻	影境	調	査	概	要
承認	照査						
			_				
建築物	勿環境衛生	管理基準			測定値	直	
測定項目		基準値	J	最高値		最低	値

 $17 \sim 28 °C$

29.6°C

0.1°C

7-2-2-6 基準値変更

建築物環境衛生管理基準			測分	官値	不適箇所数/
測定項目		基準値	最高値	最低值	/測定箇所数
温度		$17 \sim 28 \ ^{\circ}\mathrm{C}$	29.6°C	0.1°C	186 291
相対湿度	瞬	$40\sim70~\mathrm{\% RH}$	100.0%RH	0.3%RH	201 291
気流	間	0.5m/sec以下	0.60m/sec	<0.05m/sec	42 291
照度	値	$0 \sim 1000000 \mathrm{lx}$	9971x	41x	0 291
騒音		1000 db以下	30. 0db	0. 0db	0 291
二酸化炭素 (C02)	平	1000 ppm以下	1815ppm	172ppm	53 97
一酸化炭素 (C0)	均	10 ppm以下	16.4ppm	1.7ppm	49 97
浮遊粉じん量	値	0.15 mg/m ³ 以下	0.313mg/m ³	0.031mg/m ³	62 97

温度

基準値列の範囲「A~B」はA以上B以下を合格範囲とみなします。

基準値列の範囲「Cxxx 以下」はC以下を合格範囲とみなします。

入力された基準値を元に不適箇所数が集計されます。

表示される値は表示桁以下で丸めが行われます。そのため測定値が表示桁数以下の値 を持つ場合は、表示桁以下のわずかな誤差で合否判定に影響がある場合があります。

基準値が瞬時値となっている項目は、各測定場所で複数回測定していても、それぞれ の測定値で合否判定を行います。例えば、3回測定していて1回目と2回目は合格、 3回目は不合格であった場合には、不適箇所数/測定箇所数は1/3となります。

基準値が平均値となっている項目は、各測定場所で複数回測定している場合は、各測 定場所での平均値を合否判定します。例えば、3回測定していて1回目と2回目は合格、3回目は不合格であったが、平均値では合格範囲に入っている場合には、不適箇 所数/測定箇所数は0/1となります。

7-2-2-7 照度・騒音

照度と騒音行は報告書オプションの概要表示で表示・非表示を切り替えることが可能 です。

7-2-2-8 概評・特記事項入力

概評と特記事項にも直接文字入力が可能ですが、あらかじめ登録してある文章を選択 して入力することも可能です。

/ 測定箇所数	根理書平					
291	概ね良好です。					
291		;221p			 यकत	
291		候補編集	,	全般的(はま準値より高い傾	向にあります。
/ ₉₇		切り取り(T) コピー(C)	Ctrl+X Ctrl+C	全般的(空調停)	に基準値より低い傾 止。	向にあります。
/ ₉₇		貼り付け(P)	Ctrl+V	窓開放。 喫煙の	。 影響有り。	

概評と特記事項に入力する時に、挿入したい箇所でマウスを右クリックすると表示されるメニューの「選択」という項目の次の階層に入力候補の一覧が表示され、選択した文章が挿入されます。

7-2-3 詳細

[詳細]をクリックします。

7-2-3-1 項目編集

	Ĭ	則定状沙	2	温度			
测定提示	時刻	在室	喫煙	1'	С		
例 た 笏 り	时刻	人数	人数	1.2m 0.1m		差	
	時:分	人	人	°C	°C	°C	
01(2階)	00:00	0	3				
2階							
会議室							
02(3階)	00:00	0	0	20.5	20.1	0.3	
3階	00:00	0	0	19.4	27.2	-7.9	
食堂	00:00	0	0	9.0	7.7	1.3	
03(4階)	00:00	0	0	18.3	21.0	-2.7	

表組となっている各測定値をクリックすると測定値の編集を開始できます。 温度差と平均値は自動で計算が行われるため入力は行えません。 ※[詳細]では入力可能な項目を水色で表示していません。

この画面で編集可能な測定値は、測定場所毎に3カ所までとなっています。 また、3回中2回以下しか測定されていない場合、未測定の場所に入力を行うことは できません。追加を行うには記録編集で行ってください。

入力が許可されている内容で入力されていないと赤枠が表示され、未確定状態となり ます。ウィンドウ下部の状況メッセージを参考に修正してください。

7-2-3-2 備考入力

備考に入力する時に、挿入したい箇所を選択してマウスを右クリックすると、表示さ れるメニューの「選択」という項目の次の階層に入力候補の一覧が表示され、選択し た文章が挿入されます(概要の概評・特記事項入力をご参照ください)。

7-2-3-3 一部の測定値の表示について

測定値が一定値より小さい値の場合は数値の前に「<」記号がつくことがあります。 例えば、気流は測定器の測定下限が0.05m/sであるため、0.05未満は測定下限の<0.05 という表記になります。一酸化炭素と浮遊粉じんも同様になります。

気流	二酸化	比炭素	一酸化	比炭素	浮遊粉じん		
0.5	1000	ppm	10p	pm	0.15mg/m ³		
m/s	瞬間	平均	瞬間	平均	瞬間	平均	
m/s	ppm	ppm	ppm	ppm	mg/m³	mg∕m³	
<0.05	1		<0.1		<0.001		
0.06	2	2	0.2	0.2	<0.001	<0.001	
0.10	3		0.3		0.002		

7-2-3-4 天候編集

天候欄の右端のボタンをクリックす ると天候の一覧ウィンドウが表示さ れます。

例:晴れのち曇り
 左の[晴れ] ボタン
 中央の[⇒] のち
 右の[曇り] ボタン

入力後に [OK] をクリックすると確 定され、ウィンドウ外をクリックす ると閉じられます。



7-2-3-5 書式変更

詳細の数値部分は概要で設定した範囲内にない場合の、背景色と文字色を指定して表示することができます。設定は報告書の編集中に、メニューの編集 → [報告書 Option] またはツールバーの [範囲外書式] から行います。

範囲外の文字の色

範囲外の値は指定の色で表示されます。

範囲外の背景の色/範囲外の塗りつぶし 指定の色でセルの背景が、塗りつぶし か網掛けのいずれかで表示されます。 透明にすると背景処理は行われません。



7-2-4 グラフ

[グラフ]をクリックします。

7-2-4-1 表示範囲変更

グラフの縦軸は各数値の値軸です。

初期状態では IES-3000 の報告書と同範囲となっていますが、測定値がグラフに収ま らないと都合が悪い場合には、軸の範囲を変更することが可能です。

変更するにはグラフを表示させて、ツールバーの[グラフ設定]ボタンをクリックす ると変更ウィンドウが表示されます。

設定は報告書毎の設定と建築物毎の設定とがあります。

報告書毎の設定は報告書ファイルに記録されて、その報告書固有の設定となります。 建築物毎の設定はその建築物の新しい報告書を作成するときに適用される初期設定値 となります。

報告書の軸設定 報告書に設定はありません 右に表示されている共通設定値が使用されます。 ●●	▲ 報告書に軸設定がない場合の共通設定 温度 最小値= 12 最大= 32 目盛間隔= 1 補助目盛間隔= 1 目盛開始位置= 13 - 温度差 最小値= -4 最大= 4 目盛間隔= 2 補助目盛間隔= 1 目盛開始位置= -2
	外気温 最小値= -3 最大= 35 ×
報告書を初期値に戻す 報告書から設定を削除 ☑ 温度差を表示 ☑ 外気の21	也点目(99)を表示する OK

上図の状態が初期状態になります。

中央の ◆ ボタンをクリックすると右側にある報告書毎の表示範囲設定を、左の報告 書毎の表示範囲に複写します。

報告書の軸設定	報告書に軸設定がない場合の共通設定	
温度 最小値= 12 最大= 32 目盛間隔= 1補助目盛間隔= 1 目盛開始位置= 13	温度 最小値= 12 日盛間隔= 1 補助目盛間隔= 1 目盛開始位置= 13	^
温度差 最小値= -4 最大= 4 目盛間隔= 2 補助目盛間隔= 1 目盛開始位置= -2	▲ 温度差 最小値= -4 最大= 4 目盛間隔= 2 補助目盛間隔= 1 目盛開始位置= -2	
外気温 最小値= -3 最大= 35	✓ 外気温 最小値= -3 最大= 35	>
報告書を初期値に戻す 報告書から設定を削除 ☑ 温度差を表示 🕟	☑ 外気の2地点目(99)を表示する	OK

複写された左側の数値を変更することでグラフの縦軸範囲が変更されます。 報告書の軸設定は報告書ファイルに保存することで記録されます。

範囲変更が不要もしくはやり直しを行いたい場合は、[報告書を初期値に戻す] または [報告書から設定を削除] で報告書の設定を戻してください。

「報告書の軸設定」で設定された範囲設定を他の記録にも反映したいときは、

➡ ボタンで建築物毎の設定値に複写されます。

7-3 記録編集

7-3-1 測定場所の編集

IES-4000本体で測定ができなかったなどで後から測定場所を手入力で追加したい、あるいは測りすぎたので余計な測定を削除する必要がある場合に、編集することが可能です。

詳細ページを表示させてツールバーの[記録編集]をクリックすると記録編集ウィン ドウが表示されます。



⇔:マウスで幅を変更できます。

- 測定済み場所 現在の報告書で詳細に表示される測定場所が一覧で表示され 一覧(ポイント)ます。
- 測定済み場所 測定済みの測定場所。
- ③ 測定記録 測定場所で測定した記録の一覧が下位に表示されます。
- ④ 未測定場所一覧 測定済み場所一覧に所属していない、建築物管理画面で追加した建築物の測定場所が表示されます。
- ⑤ 追加ボタン 未測定場所一覧で選択している測定場所を上の測定済み場所 一覧へ追加します。あるいは表示中のすべての未測定場所を測 定済み場所一覧に追加します。
- ⑥ 建築物入力
 測定済み場所一覧で測定済み場所が選択されている時はその

 場所の説明を編集できます。
 - ※ここで変更しても管理画面の登録には反映されません。
- ⑦ 測定平均値 測定済み場所一覧で測定場所が選択されている場合、その場所 の全測定値の平均値が表示されます。
- ⑧ 測定値 測定済み場所一覧で測定記録が選択されている場合、その測定 記録が表示され、値を変更することも可能です。

7-3-2 並べ替え

記録編集ウィンドウの測定済み場所一覧で、選択した測定場所あるいは測定記録をマ ウスのドラッグ&ドロップで任意の並びに移動できます。

ただし、測定場所の 00 と 99 は屋外測定に割り当てられているため、並び替えを行っても詳細とグラフでの位置は変わりません。

7-4 報告書基本値

測定結果から報告書を作成すると、都度新しい報告書が作成されます。そのままの状態では、表示などの項目も再入力しなければならなくなります。 特に表紙に記載する内容の多くは建築物毎に毎回変更されるものではありません。 そこで報告書毎に変更されない箇所を基本値として保存しておくことができます。 この基本値を読み込むことで、新しい報告書の作成でも以前の報告書で入力された内 容を引き継ぐことが可能になります。

7-4-1 基本値として保存される内容

表紙は日付以外の入力可能項目と拡張機能で作成したカスタム部品が保存されます。 概要は実施者・概評・特記事項以外の入力可能項目が保存されます。 詳細とグラフでは保存される項目はありません。

7-4-2 保存

基本値は物件毎に保存します。そのため [IES 保存ファイルを開く] から物件を選ん で報告書を作成したときのみ、その物件の基本値として保存することができます。 「報告書ファイルを開く]では物件を指定していないため保存することはできません。

報告書の表紙と概要の検印欄に必要な入力ができたら、メニューのファイルもしくは ツールバーの [報告書基本値保存] をクリックすると保存が行われます。

7-4-3 読み込み

基本値は物件毎に保存されています。そのため [IES 保存ファイルを開く] から物件 を選んで報告書を作成したときのみ、その物件の基本値を自動で反映します。 基本値を保存していない物件では初期状態のままになります。

報告書ファイルから報告書を開いた場合や基本値が無い物件の場合には、他の物件の 基本値を取り込むことができます。

ツールバーの [報告書基本値取込] をクリックするとファイル選択ダイアログが表示 されます。読み込みたいファイルを選択してください。

IES報告書保存フォルダ(IES4000I)以下にある複数のフォルダの中にある 「IES4Default.xml」というファイルが基本値保存のファイルです。

● 報告書基本値読み込み								
€ ∋ - ↑ 🛽	« IES4000I > 000000	01 ~ C	00000001の検索		٩			
整理 ▼ 新しい5	オルダー			•	0			
HDD_MAIN IES40001 0000000 0000000 0000000 000000	(H:) ^	IES4Defau It.xml						
	ファイル名(N): IES4Defau	ult.xml v	IRP4報告書基本値 開く(0)	ファイル (* .xn キャンセル	✓✓			

7-5 概評候補

概要の概評と特記事項、詳細の備考欄には直接文字入力が可能ですが、あらかじめ登録してある文章を選択して入力することも可能です。

/ 測定箇所数	概評							
291	概ね良好です。							
201					_			
291			選択		•	概ね良妙	子です。	
291			候補編集			全般的(こ基準値より高い修	頁向にあります。
/			切り取り(T)	Ctrl+X		全般的(こ基準値より低い修	頁向にあります。
97		:	⊐ピ–(C)	Ctrl+C		空調停」	Ł.	
/			貼り付け(P)	Ctrl+V		窓開放。		
- 97						喫煙の暴	響有り。	

メニューの編集または、右クリックメニ ューにある[候補編集]で一覧に表示さ れる候補の入力ダイアログが表示され ます。

表示されたダイアログに候補とする文 字列を入力します。

入力されている各行が候補となります。

候補編集	x
概要や詳細の備考入力時の候補を編集できま (各行が候補になります)	इ.
概ね良好です。 全般的に基準値より高い傾向にあります。 全般的に基準値より低い傾向にあります。 空調停止。 窓開放。 喫煙の影響有り。	~
L	\sim
	ОК

8 印刷

8-1 報告書印刷

メニューのファイルの [印刷] または、ツールバーの [印刷] ボタンで印刷が行えます。 OS や接続されているプリンターによって異なる出力結果となる場合があります。

8-1-1 全印刷

現在開いている報告書の全ページを印刷します。 印刷前に右図の印刷選択ダイアログが表示され、印刷し たいページを選ぶことが可能です。印刷したくないペー ジはページ名の左のチェックを外してください。 表紙が複数ページある場合は、ページ毎に設定できます。

8-1-2 選択中の印刷

現在開いている報告書の表紙・概要・詳細・グラフのう ち表示されている種類のページを全て印刷します。



オプション

0

[初期表示] 報告書 [印刷] 互換性] 保障外 [デル

□ 順路印刷時に無効な測定ポイントも印刷する。

0

順路印刷

余白調節

● 表紙
 ○ 概要

○ 詳細 ○ グラフ

印刷設定

□ 可能なら白黒印刷にする

8-1-3 表示中を印刷

作業領域に表示されている、そのままのページを1ページだけ印刷します。

8-1-4 空白印刷

何も入力されていない用紙を1種類につき1枚ずつ印刷します。 印刷前に上図の印刷選択ダイアログが表示され、印刷したいページを選ぶことが可能 です。印刷したくないページはページ名の左のチェックを外してください。

8-2 印刷設定

メニューのツール → オプションで報告書印刷時の設定を変更できます。 これらの設定はすべての報告書の印刷に影響します。

8-2-1 順路印刷時

建築物登録画面での順路印刷をする時に、有効に されていない測定場所も印刷したい場合にチェッ クを入れます。

8-2-2 余白調節

左のラジオボタンで表紙・概要・詳細・グラフの いずれか調整したい用紙を選択し、数値入力部分 に余白の調整量(mm)を入力します。

調節によって用紙の印刷可能領域から外れた部分は印刷できません。

8-2-3 白黒印刷

カラー印刷を抑制したい場合にチェックを入れておきます。

9 報告書保存

9-1 ファイル保存

メニューのファイルあるいはツールバーから[報告書を保存]で、開かれている報告 書をファイル形式を指定して保存できます。





9-1-1 報告書形式での保存

保存後にも本ソフトで報告書の表示・編 集・印刷を行える保存形式です。 デスクトップやエクスプローラーなどで表 示されるアイコンの大きさは表示設定によ って変化します。



IES4000(*.IES4)	標準の報告書保存ファイルの形式。
	圧縮されていません。
IES4000(圧縮)(*.IES4T)	IES4 を圧縮した形式です。
	ファイルサイズは 1/10 ほどに小さくなります。
	(画像を挿入していると逆に大きくなる場合があります)

9-1-2 CSV/EXCEL 形式での保存

CSV(Shift JIS)(*.CSV)	カンマ区切りの CSV ファイルとして保存します。
CSV(UTF-8)(*.CSV)	文字エンコードを UTF-8 で CSV ファイル保存します。
	Shift JIS で扱えない文字を使用している場合でも正しく
	文字保存きます。
Excel2007(XLSX)(*.xlsx)	EXCEL2007 以降での直接読み込める形式で保存します。
	一部の書式が保持されます。

Excel2002(XMLSS)(*.xml) EXCEL2002 以降での直接読み込める形式で保存します。 一部の書式が保持されます。

9-1-3 クリップボード

メニューの編集から [クリップボードへ] で、開かれている報告書の内容をクリップ ボードにコピーでき、メモ帳や EXCEL などに CSV 相当で貼り付けを行えます。 EXCEL への貼り付けでは [形式を選択して貼り付け] で [XML スプレッドシート] を 選択すると XMLSS 相当での貼り付けが行えます。 EXCEL のバージョンが古く文字化けする場合には CSV で貼り付けを行ってください。

10 報告書オプション

報告書を開いている状態でメニューの編集から [報告書 Option] が設定できます。

10-1 範囲外書式

詳細ページで表示・印刷される測定値が、概要で設定されている範囲外にある場合の 文字の色と背景の色を選択します。





10-2 概要ページ設定

10-2-1 実施者・補助者の欄の行数

概要ページ右上の欄の実施者・補助者入 力欄の数を0~4の範囲で変更できます。

10-2-2 照度•騒音

チェックを入れると概要ページの測定項 目で、照度と騒音の項目も表示・印刷さ れるようになります。 また、表示されるようにした測定項目は CSV・EXCEL・クリップボードでも保存さ れるようになります。

	建築物名称								
	測定年月日	平成	26	年	09	月	29	日	31
C	測定実施者								~
	補助者1								~
	補助者2								~
	補助者3								~



なお、詳細ページの詳細列表示でも同項目にチェックをいれておく必要があります。

10-3 詳細ページ設定

10-3-1 詳細列表示

	湿度		
17	$40\sim$		
1.2m	0.1m	70%	
°C	°C	°C	%RH
	1′ 1.2m °C	温度 17~28° 1.2m 0.1m ℃ ℃	温度 17~28℃ 1.2m 0.1m ℃ ℃

温度差あり

	温度	湿度	気流	二酸化
垔	$17\sim 28^{\circ}\mathrm{C}$	$40\sim$	0.5	1000
汝	1.2m	70%	m/s	瞬間
	°C	%RH	m/s	ppm
		温度差	「無し	

米	分じん	照度	騒音	
br	ng/m³			
	平均			
÷	mg/m³	Lx	dB	
_				

照度・騒音あり



10-3-2 詳細行

詳細ページで測定場所1点に何回分の測定値を表示させるかを設定できます。 設定可能回数は2回もしくは3回となります。

測 定 場 所	測定 時刻 在 人 人 時:分 人	測 定 場 所	測 時刻 時:分	定在人 ノ
01(2階) 場所の説明 1 掲手の説明 2	00:00	01 (2階) 場所の説明 1	00:00	
<u> </u>	00:00	02(3階) 大会議室 03(地下1階)	$ \begin{array}{c} 00:00 \\ 00:00 \\ 00:01 \end{array} $	
入り口	00:00	荷物倉庫	00:00	

2回

3回

測定回数の表示を2回にするには、最左列の測定場所の説明を2行以下に設定する必 要があります。説明文の表示・非表示は次の測定場所説明で設定します。

10-3-3 測定場所説明

測定場所番号を表示する	:	1 行目に表示 登録されていた測定場所の番号
		(1 から 98 が通常の場所。0 と 99 が屋外)
測定地階を表示する	:	1 行目に表示 登録されていた測定場所の階数
地階表記	:	測定場所の階数が地下の場合につける接頭語を指定
階数表記	:	測定場所の階数につける接尾語
測定場所説明1を表示する	:	2 行目に表示 登録されていた測定場所の説明 1
測定場所説明2を表示する	:	3 行目に表示 登録されていた測定場所の説明 2

10-3-4 外気

		00.00
1	か 00(111比)	00:00
	今下 00 (1) 隋) 与 11- 入 り 口 前	00:00
	又(16) (9 日 前)	00:00
	机 00(100 ()	00:00
	今南入り口前	00:00
	X 用バッロ前	00:00
	庙田測 常 継	空気環
		(柴田利

	00.00
19(0]]](2)]	00:00
12(0)管) 主指空	00:00
不1日足	00:00
	00:00
21-10(1)) 与北への口前	00:00
メロバッロ前	00:00
市田 測 字 地 聖	空気環.
灰	(柴田利

外気の2地点目(99)を表示する 外気の2地点目(99)を表示しない

10-4 判定

温度測定は 1.2m の位置の温度のほかに 0.1m の位置の温度も測定を行えます。温度の 許容範囲の判定は 1.2m では常に判定を行いますが、「温度(0.1m)の判定は行わない」 にチェックを入れていない場合には 0.1m の温度の判定も行います。

11 オプション

- 11-1 初期表示
 - 11-1-1 管理画面の初期表示

管理画面を開いたときに表示する画面を選択し ます。

11-1-2 報告書画面の初期表示

報告書を読み込んだ時に表示する画面を選択し ます。

11-1-3 印刷時の項目選択初期値

このオプションで設定されている用紙は、全印 刷もしくは空白印刷を行う時に表示されるダイ アログで、初期状態で印刷するようにチェック されます。

11-1-4 ツールバー

「ツールバーの文字を表示」のチェックを外す とツールバーのボタンの文字が非表示になりま す。

「ツールバーの表示位置」で上下左右のいずれ かを選択すると、ツールバーの配置が作業領域 の上下左右に移動します。

オプション 🔹
初期表示】報告書【印刷】互換性】(
管理画面の初期表示 ○ 作業者 ● 建築物
報告書画面の初期表示 〇 表紙 ④ 概要 〇 詳細 〇 グラフ
印刷時の項目選択初期値 ♀ 全て ♀ 表紙 ♀ 空気環境調査概要 ♀ 環境測定結果 ♀ 空気清浄度測定結果(グラフ) ♥ 照度騒音測定結果(グラフ)
- ツールバー ✓ ツールバーの文字を表示 ツールバー表示位置 ○ ○ ○
バックアッフ° 読込 OK Cancel

11-2 報告書

11-2-1 報告書の測定点数

保存フォルダから読み込んで報告書を作成する ときに、各測定場所での測定回数がこのオプシ ョンで指定した回数以上になるようにします。 例 1)

このオプションを3回にして報告書を作成する 場合、1回だけ測定した測定場所には残りの2 回分を空の測定値で、自動で追加します。2回 測定した測定場所には1回分を追加します。 例2)

このオプションを2回にして報告書を作成する 場合、1回だけ測定した測定場所には残りの1 回分を空の測定値で、自動で追加します。2回 測定した測定場所には追加されません。

3回測定した測定場所はそのまま3回の記録となります。



11-2-2 グラフ

グラフに測定数値をどのように表示するかを指定します。下図は気流の場合です。



気流は測定器の測定下限が 0.05m/s であるため、0.05 未満は測定下限の<0.05 という 表記になります。「測定下限値のみ」はこの測定下限の場合のみ表示します。

グラフの軸設定で設定されている上限あるいは下限 の範囲外の測定値は、数値が表示されなかったり不完 全になったりする場合があります。

「文字が収まるように補正する」にチェックを入れる と、数値がグラフの表示領域内に収まるように位置を 補正します。



11-3 印刷

11-3-1 順路印刷

チェックを入れておくと建築物の測 定場所の一覧を印刷するときに、すべ ての場所を印刷します。

チェックを入れないと有効としてい る場所のみが印刷されます。

11-3-2 余白調節

左のラジオボタンで調整したい用紙 を選択し、数値入力部分に余白の調整 量(mm)を入力します。調節によっ て用紙の印刷可能領域から外れた部 分は印刷できません。

オプション 💉
初期表示】報告書【印刷】互換性】保障外】デノ
順路印刷 □ 順路印刷時に無効な測定ポイントも印刷する。
 余白調節 ● 表紙 ○ 概要 ○ 詳細 ○ グラフ
印刷設定 □ 可能なら白黒印刷にする
パ、ックアッフ [®] 読込 OK Cancel

11-3-3 白黒印刷

カラー印刷を抑制したい場合にチェックを入れておきます。

11-4 互換性

「IES3000 の保存ファイルも検索する。」にチェックを入れると、保存フォルダ検索時に IES-3000 の保存ファイルを検索するようになります。



11-5 保障外

「可能な場合に Enter キーでフォーカス移動する。」にチェックを入れると、キーボードの [Enter] キーを使ってフォーカス移動します。

11-6 デバッグ

印刷すると文字変形や文字化けしている場合に、別のフォントで印刷できるようにします。

問題なく使用できている場合は、変更を控えてください。

12 拡張機能

拡張機能は特別仕様のユーザー様向けの機能となっており、以下の種類があります。 拡張機能コードを登録すると機能が有効となります。

・印影の表示と編集

報告書の「空気環境調査概要」ページの測定実施者および補助者名入力欄に作業者 の印影を追加できるようになります。

・カスタム部品の追加

報告書の「表紙」に標準仕様にはない文字列表示・文字入力欄、画像、線・枠線を 追加することができます。 ※追加部品をあらかじめ定義したファイルが別途必要になります。

・カスタム部品編集機能

上記カスタム部品をユーザー様で自由に追加できるようになります。

13 操作の流れ



14 注意事項

本ソフトでは USB メモリに読み書きを行います。

ソフトを実行中にメモリを抜き差しすると、データが破損するおそれがあります。

特に管理画面(作業者管理、建築物管理)においては、ユーザー様の入力によって変更が 行われるときに頻繁に読み書きが行われます。

安全にメモリを抜くにはソフトを終了するか、管理対象のドライブをUSBメモリ以外に変 更してから行ってください。

ソフトの実行中に USB メモリを抜いてデータが破損した場合は、データを回復することはできません。

通常の管理入力はハードディスクに保存しておき、ソフト終了後にUSBメモリにコピーすることでデータ破損の危険を減らすことが可能です。

その場合、IES4000というフォルダ全てをコピーするようにしてください。

一部のみのコピーではデータの不整合により読み書きできなくなるおそれがあります。

お問い合わせ

本製品につきまして、ご不明な点、ご用命などがありましたら、お手数ですが、お買い上 げ販売店もしくは当社各営業所までお問い合わせください。

免責事項

本製品を使用中、万一何らかの不具合によって、データの取得および記録がされなかった 場合の内容の補償および付随的な損害(事業利益の損失、事業の中断など)に対して、当 社は一切の責任を負いません。

また、当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデー タが消失・破損した場合については、補償していません。修理その他当社へのご依頼時は、 必要なデータのバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、 またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場 合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

16.02.12H (10)



注)改良のため形状、寸法、仕様等を機能、用途に差し支えない範囲で変更する場合があります。